科学研究費助成事業（基盤研究（Ｓ））研究進捗評価

課題番号	16H06387	研究期間	平成２８(2016)年度 ～令和２(2020)年度
研究課題名	抑制性免疫受容体による自然免疫応答の制御機構の解明	研究代表者 （所属・職） （平成 31 年 3 月現在）	渋谷　彰 （筑波大学・生存ダイナミクス研究センター・教授）

【令和元(2019)年度　研究進捗評価結果】

評価		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A－	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

（意見等）

本研究は、研究代表者が同定した MAIR-I・Allergin-1・Clec10a という３つの免疫抑制受容体を対象に、1)リガンドの同定、2)リガンド結合の時空間局在、3)疾患病態における細胞特異的機能の解明と分子標的としての可能性を検討することを目的としている。

当初計画とは異なる結果となった点もあるが、着実に取り組み、十分に研究成果も上がっている。2)リガンド結合の時空間局在に関して、当初計画していたレポーターマウスの記載がないが、MAIR-I とリガンドである Phosphatidylserine(PS)との Cis 結合によるアナフィラキシー反応の自己抑制といった知見は、時空間局在の理解に基づくものである。今後、細胞特異的な機能解析が進むことで、更なる大きな研究成果が期待できる。